

製品名: 切断型インテグリン $\alpha 5$ LC (E895) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08995**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	ITGA5
別名	ITGA5; FNRA; Integrin alpha-5; CD49 antigen-like family member E; Fibronectin receptor subunit alpha; Integrin alpha-F; VLA-5; CD antigen CD49e
遺伝子 ID	3678.0
SwissProt ID	P08648
免疫原	抗血清はヒト ITGA5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 876-925

背景

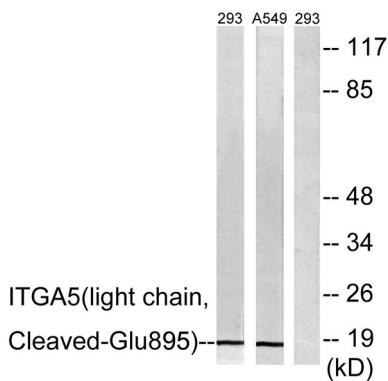
インテグリンサブユニット $\alpha 5$ (ITGA5) ホモサピエンスこの遺伝子産物はインテグリン α 鎖ファミリーに属する。インテグリンは、

細胞表面接着およびシグナル伝達に機能する α サブユニットと β サブユニットからなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質である。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、 $\alpha 5$ サブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成する。このサブユニットは $\beta 1$ サブユニットと会合してフィブロネクチン受容体を形成する。このインテグリンは腫瘍浸潤を促進する可能性があり、この遺伝子の高発現は肺癌患者の生存期間の短縮と相関している可能性がある。インテグリン $\alpha 5$ サブユニットとインテグリン αV サブユニットは異なる遺伝子によってコードされていることに注意すること。[RefSeq 提供、2015年10月]、機能: インテグリン $\alpha 5/\beta 1$ は、フィブロネクチンおよびフィブリノーゲンの受容体である。リガンドの R-G-D 配列を認識する。HIV-1 感染の場合、細胞外ウイルス Tat タンパク質との相互作用がカポジ肉腫病変における血管新生を促進すると考えられる。類似性: インテグリン α 鎖ファミリーに属する。類似性: 7つの FG-GAP リピートを含む。サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロ二量体。 α サブユニットはジスルフィド結合で連結された重鎖と軽鎖で構成される。 $\alpha-5$ は $\beta-1$ と会合する。HPS5 および NISCH と相互作用する。HIV-1 Tat と相互作用する。RAB21 と相互作用する。

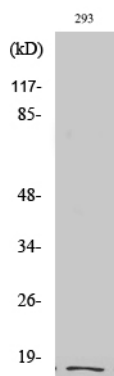
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、造血細胞系統、アクチンと細胞骨格の調節、肥大型心筋症 (HCM)、不整脈性右室心筋症 (ARVC)、拡張型心筋症。

画像データ



エトポシド 25 μ M で 1 時間処理した 293 細胞および A549 細胞のライセートを、ITGA5 (軽鎖、切断型グルタミン酸 895) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



切断型インテグリン $\alpha 5$ LC (E895) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析